

橘高等学校定時制令和05年度 教科国語 科目国語表現 年間授業計画

教科 科 : 国語 科目: 国語表現 単位数: 2 単位

対象学年組 : 第4 学年 1 組

教科担当者名 : (1 組: 並木信人)

使用教科書 : (高等学校改訂版国語表現 (第一学習社))

使用教材 : (作成プリント)

学期	指導内容	教科国語の具体的な指導目標	予定 時数
1 学期	高校生活を振り返って 漢字学習	教育漢字を正しく使い、与えられた題の小論文を的確に書けるようにする。	2 4
2 学期	社会に出たらやりたいこと。 漢字学習	小論文を書くことを通じて、自己の進路について考える。	1 4
	抽象的な題名の小論文 漢字学習	抽象的な題名の小論文を書くことを通じて、論理的思考力をみにつける。	1 4
			合計 5 2
3 学期	高校生活を通じて身につけた国語力の確認。	実力テストを解くことを通じて、自分が高校生活を通じて身につけた国語力を具体的に確認する。	1 8
			合計 7 0

評価の観点・方法 :

毎時の授業に積極的に取り組み、文章を的確に理解でき、自分の考えを具体的に表現できたかで評価する。

橘高等学校定時制令和05年度 教科公民 科目政治・経済 年間授業計画

教科 科 : 公民 科目 : 政治・経済 単位数 : 2 単位

対象学年組 : 第4学年1組

教科担当者名 : (1組 : 幸田 まゆ)

使用教科書 : (高等学校 新政治・経済 新訂版 (清水書院))

使用教材 : (自作プリント)

学期	指導内容	教科公民の具体的な指導目標	予定 時数
1 学期	現代の政治 ○民主政治の基本原理 ○日本の政治機構 ○現代日本の政治	○民主政治の基本原理を学び、国民の政治参加について理解させる。 ○国会、内閣、裁判所の役割と三権分立について概略を理解させる。 ○日本の選挙制度と選挙における課題を理解させる。	24
2 学期	現代の経済 ○価格と市場の役割 ○株式会社の仕組み ○財政の役割と課題 ○貨幣の役割と金融	○市場経済における価格の変化を市場の原理から理解させる。 ○株式会社の仕組みと企業の社会的責任について理解させる。 ○政府が行う経済活動の機能をとらえ、歳入と歳出のバランスから財政の課題を理解させる。 ○市場経済で貨幣が担う役割と金融の仕組みを理解させる。	28
			合計 52
3 学期	現代の経済 ○労働者の権利 ○社会保障制度のあゆみ	○市場経済における労働者の立場を確認し、労働者の権利について理解させる。 ○社会保障が誕生した背景と日本の社会保障の四つの柱について理解させる。	18
			合計 70

評価の観点・方法 :

関心・意欲・態度	政治経済の事象に関心を持ち、主体的に授業に参加しようとする。
技能・表現	政治経済の重要な出来事について資料から読み取ることができる。
思考・判断	現代社会で起こっている課題について考察することができる。
知識・理解	基本的な政治経済の用語を理解し、一問一答の問題に解答できる。

橘高等学校定時制 令和5年度 教科数学 科目数学A 年間授業計画

教科 科 : 数学 科目 : 数学 A 単位数 : 2 単位

対象学年組 : 第 4 学年 1 組

教科担当者名 : 1 組 竹内

使用教科書 : 東京書籍 改訂 新数学 A

使用教材 : なし

学期	指導内容	教科数学の具体的な指導目標	予定 時数
1 学期	2 章 図形の性質 1 節 三角形の性質 重心・内心・ 外心	・ 三角形の重心・外心・内心の求め方が理解でき ているか、それらの性質が理解できているか。	1 4
	2 節 円の性質 円周角の定理、 円に内接する四角形の性質、 円と直線の関係、3 平方の定 理	・ 円周角の定理、方べきの定理が理解でき、それ らを利用し各問題が解けるか。	1 4
2 学期	3 章 整数の性質 1 節 約数と倍数 約数と倍数 最大公約数、最小公倍数、ユーク リッドの互除法	・ 最大公約数、最小公倍数が求められるか、ユーク リッドの互除法を理解し、自身で求められる か。	1 2
	2 節 整数の性質の応用 方程式の整数解、少数と分数	・ 方程式の整数解が理解でき、自身で求められる か。分数と小数の関係が理解できているか。	1 2 4
	合計		5 6
3 学期	1 章 場合の数と確率 1 節 集合、和の法則と積の法則	・ 集合の概念、包含関係が理解でき問題が解ける。	1 4
	2 節 場合の数 順列、組合せ、確 率の計算、独立試行の確率	・ 順列、組合せについて理解でき、文章問題にお いてどちらで求めるのか判断でき、問題が解け る。	
			合計 7 0

評価の観点・方法

関心・意欲・態度 : 数学的な考え方に関心を持ち、事象の考察に活用しようとする。

技能・表現 : 数学的な見方や考え方を身に付け、多面的・発展的に考える。

思考・判断 : 数学的に考察し、表現や処理をする方法を学び、問題を解決する。

知識・理解 : 基礎的な知識とともに計算力を身に付ける。

橘高等学校定時制令和05年度 教科 保健体育 科目 体育 年間授業計画

教科 科 : 保健体育 科目 : 体育 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第4学年 1組

教科担当者名 : (馬場 正彦 佐藤 佑哉)

使用教科書 : (最新高等保健体育 改訂版)

使用教材 : (なし)

学期	指導内容	教科体育の具体的な指導目標	予定 時数
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・体力測定 ・体づくり運動 ・バスケットボール ・バドミントン ・卓球 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の調子を整え、体力の向上を図るために授業開始後10分間程度柔軟体操、体幹トレーニングを行う。 ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能と仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする(球技種目)。 	24
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー ・バスケットボール ・長距離走 ・卓球 	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーやバスケットボールでは、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開できるようにする。 ・長距離走では、自己のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立て取り組むことができるようにする。 	28
			合計 52
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・長距離走 ・体育理論 ・選択種目 バレーボール バドミントン 卓球など 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを深く味わい、ペースの変化に対応して走ることができるようにする。 ・バレーボールやバドミントン、卓球などでは、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できるようにする。 	18
			合計 70

評価の観点・方法 :

- ・関心・意欲・態度 : 自ら進んで運動を実施し、運動の楽しさや喜びを体得しようとする。
- ・技能 : 競技に必要な技能や体力を高めるための運動の行い方を身につけている。
- ・思考・判断・表現 : 課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。
- ・知識・理解 : 運動の特性や運動の意義を理解し、知識を身につけている。
- ・上記の観点を総合的に判断して評価を行う。

橘高等学校定時制令和05年度 教科英語 科目英語会話 年間授業計画

教科 科 : 英語 科目: 英語会話 単位数: 2単位

対象学年組 : 第4学年 1組・2組

教科担当者名 : (1組・2組: 仲瀬 久幸)

使用教科書 : (Sailing English Conversation (啓林館))

使用教材 : (なし)

学期	指導内容	教科英語の具体的な指導目標	予定 時数
1 学期	Warm-Up 1 English Around the World Warm-Up 2 People Around Us Lesson1 What Day Is Convenient for You?	●教科書本文の音読が正しく出来る ●教科書本文の単語・熟語を理解し聞き取り、発話することができる。	24
2 学期	Lesson2 How Was Last Sunday? Lesson3 Could I Have an Extra Blanket? Lesson4 Who's Calling, Please?	●リスニング・スピーキング活動を行う。 ●プレゼンテーション形式で行う。 ●教科書本文の音読が正しく出来る。	28
			合計 52
3 学期	Lesson5 How Can I Get There? Lesson6 May I Help You? Lesson8 I'm Not Feeling Well.	●教科書本文の単語・熟語を理解できる ●ペアワークを行う。 ●人前で英語を発話できるようにする。	18
			合計 70

評価の観点・方法 :

関心・意欲・態度 指名回答に応じようとする事ができる。自発回答ができる。

技能・表現 単語レベルでも発話を行う事ができる。

思考・判断 英語での言い回し・表現を正確にとらえる事ができる。

知識・理解 教科書内容の単語・熟語を覚え、意思を伝える事ができる。

橘高等学校定時制令和05年度 教科産業 科目産業実習 年間授業計画

教科 科 : 産業 科目 : 産業実習 単位数 : 3 単位

対象学年組 : 第4 学年 1 組

教科担当者名 : (1 組 : 井上)

使用教科書 : (使用教科書なし)

使用教材 : (針金、タコ糸、ボンド、和紙、塗料、作業工具など)

学期	指導内容	教科産業の具体的な指導目標	予定 時数
1 学期	卒業制作として全員でねぶた製作を行う。 ・小型金魚ねぶたを製作させ、基礎作業を理解させる。 ・班編成し、ねぶたを製作させる。 製作物を決める。 デザインを考案する。 形状を考案する。	全員で卒業制作に取り組ませる。 ・道具の準備や正しい扱い方の習得。	3 6
2 学期	骨組みを組立る。 ボディーのデザインを考案する。 デザインを施す。 塗装する。 装飾をする。 照明を搭載する。	・素材にあわせた加工技術の習得。 ・平面から立体へ起こす技術の習得。 ・立体造形の感覚の習得。 ・丁寧な作業の習得。 ・電気・電子回路の基礎を学び、製作に活用する。	4 2
			合計 7 8
3 学期	・プレゼンテーション ビデオ編集 プレゼンテーションの準備 プレゼンテーションの実施	・ビデオ編集ソフトの使い方を学習し活用する。 ・プレゼンテーションソフトの使い方を学習し活用する。	2 7
			合計 105

評価の観点・方法 :

関心・意欲：態度：授業を受ける姿勢、用具の準備など前向きに取り組めたか。

技能・表現：技能の習得においては見本に従い丁寧な作業が行えたか。

思考・判断：自分で創意工夫し、完成度を高める努力をしたか。

知識・理解：条件の範囲内で課題を完成できたか。

橘高等学校定時制令和05年度 教科産業 科目ソフトウェア 年間授業計画

教 科 : 産業 科目: ソフトウェア 単位数: 2 単位

対象学年組 : 第4 学年

教科担当者名 : (大澤 正則)

使用教科書 : (なし)

使用教材 : (必要に応じて補助教材・プリントを各班で使用予)

学期	指導内容	教科産業の具体的な指導目標	予定 時数
1 学期	資格検定試験の合格に必要な知識・ 技術を習得させる。 各検定約18時間程度学習 【受験予定検定試験】 ・文書デザイン ・プレゼンテーション作成 ・表計算	各検定試験の ・基本操作を理解させる。 ・正確な作業を身に付ける。 ・制限時間内で解答できるよう練習させる。	24
2 学期			28
			合計 52
3 学期	各テーマを学習する 各テーマ約6時間程度学習 ものづくりに関連するソフトウェア 技術について理解を深める	各班で設定する	18
			合計 70

評価の観点・方法 :

出席状況・授業態度・各検定の目標達成率の3つの観点について総合的に評価する。

橘高等学校定時制令和05年度 教科産業 科目材料技術 年間授業計画

教科 科 : 産業 科目 : 材料技術 単位数 : 2 単位

対象学年組 : 第4 学年 1 組

教科担当者名 : (1 組 : 伊藤 博)

使用教科書 : (使用教科書なし)

使用教材 : (ICT機器、自作プリント)

学期	指導内容	教科産業の具体的な指導目標	予定 時数
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・工業材料と社会生活の関連を学ぶ ①身の回りの材料など ・工業材料の分類と性質 ②工業材料の構成物質 金属材料について ①金属材料の種類と性質 ②金属材料の製造 ③金属材料の加工 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業材料の種類・性質を理解する。 ・代表的な材料の利用例を理解する。 ・鋼、鋳鉄及び基本的な鉄合金の性質を理解する。 ・金属材料の加工方法を理解する。 	24
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ① 非鉄金属について ② 代表的な工業製品である自動車部品の材料や製造工程・加工法を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業製品全般の基礎知識を理解する 	28
			合計 52
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ① 金属外の材料について ・金属外の材料の種類と性質 ②新しい材料について 	<ul style="list-style-type: none"> ・金属外の材料の分類を理解する。 ・工業分野の最新知識を理解する。 	18
			合計 70

評価の観点・方法 :

出席状況、授業態度、提出物、定期考査などを通して総合的に判断する。

橘高等学校定時制令和05年度 教科産業 科目ビジネス経営 年間授業計画

教科 科 : 産業 科目 : ビジネス経営 単位数 : 2 単位

対象学年組 : 第4 学年 1 組

教科担当者名 : (1 組 : 柚木 治夫)

使用教科書 : (なし)

使用教材 : (プリント)

学期	指導内容		教科産業の具体的な指導目標	予定 時数
1 学期	決 算 5 伝票制	費用の繰り延べ・見越し 収益の繰り延べ・見越し 貸倒れの見積り (洗替法) 有価証券の評価 減価償却 (間接法) 仕入伝票・売上伝票 伝票の集計	簿記の基本について、プリント等で記帳演習を行いながら指導する。また、原価計算についても行う。	1 3
	特殊取引の記帳 特殊仕訳帳	割賦販売・委託販売・未着商品 現金出納帳・当座預金出納帳 売上帳・仕入帳	特殊取引・特殊仕訳帳について、そのしくみを十分理解させる。 (定期考査1)	1 3
2 学期	本支店会計 株式会社の記帳	本店集中計算制度 本支店合併の貸借対照表・ 損益計算書 株式会社の資本金 繰延資産の記帳 剰余金の処分と損失の処理 社債の取引	支店会計の独立の意味を理解させ、取引の記帳方法を理解させる。 株式会社の取引と記帳方法について、個人企業との違いにふれながら、知識と技能について習熟する。 (定期考査2)	2 6 合計 5 2
	3 学期	株式会社の記帳	株式会社の税金 固定資産の売却 償却債権取立益 検定問題演習 (定期考査3)	1 8 合計 7 0

評価の観点・方法 :

関心・意欲・態度	日常の授業への参加態度・取り組み姿勢を総合的に評価する。
技能・表現	課題提出等の状況を総合的に評価する。
思考・判断	学習活動における思考や判断の状況を総合的に評価する。
知識・理解	定期考査・演習の態度や状況を総合的に評価する。

橘高等学校定時制令和05年度 教科産業 科目ビジネス演習A 年間授業計画

教 科 : 産 業 科 目 : ビジネス演習A 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第4学年 (1組)

教科担当者名 : (1組: 柚木 治夫)

使用教科書 : (ビジネス基礎 (実教出版))

使用教材 : (なし)

学期	指導内容	教科産業の具体的な指導目標	予定 時数
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスと担い手 ① 売買取引 ② 流通 ③ ビジネスの担い手 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済のしくみを理解させ経済活動におけるビジネス活動の重要性を知る。 ・生産と消費の橋渡しを行う重要な経済活動である流通について、日々行っている経済活動と照らし合わせながら理解を深めさせる。 ・ものの生産者とサービスの生産者について考え理解させる。 	24
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスと売買取引 ③ 売買に関する計算 ④ 契約上の法的根拠 	<ul style="list-style-type: none"> ・取引における重要な原価の計算や販売価格等について正確に計算させる。また、様々な外貨について学びその計算においても正確に計算できるようにさせる。 ・契約には法令の関与があるので、それらの法令を知り重要性においても理解させる。 	28
			合計 52
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスコミュニケーション ② 心構え ② 情報入手と利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・自国の文化・習慣について学ぶとともに異文化の理解として外国人とのコミュニケーションの心構えを習熟させる。 ・ことば以外の感情表現や動作 ・情報を日々入手するうえで使う媒体の特徴をおさせ、その利用に関する注意点について理解させる。 	18
			合計 70

評価の観点・方法 :

関心・意欲・態度	日常の授業への参加態度・発言等を総合的に評価する。25%
技能・表現	課題提出やその内容等について総合的に評価する。25%
思考・判断	学習活動における思考や判断の状況を総合的に評価する。25%
知識・理解	定期考査等を総合的に評価する。25%

橘高等学校定時制令和05年度 教科産業 科目情報演習 年間授業計画

教科 科 : 産業 科目 : 情報演習 単位数 : 3単位

対象学年組 : 第4学年 1組

教科担当者名 : (1組 上野 笑子)

使用教科書 : (なし)

使用教材 : (プリント)

学期	指導内容	教科産業の具体的な指導目標	予定 時数
1 学期	(1) プレゼンテーション ①プレゼンテーションの基礎 ②プレゼンテーションの実践	プレゼンテーション活動の目的や方法について理解させ、プレゼンテーション・ソフトウェアを活用した実習を通して、発表用の資料の整理や作成などの準備から発表までのプレゼンテーション技法を習得させる。 (プレゼンテーション作品の制作)	18 18
	(2) ビジネスと表計算ソフトウェア ①表計算ソフトウェアの役割 ②表計算ソフトウェアの基本操作	表計算ソフトウェアの活用により情報の集計処理の簡潔化、明瞭化などの効果が期待できることについて理解させる。 (定期考査)	
2 学期	(3) 表計算ソフトウェアの関数の活用・基礎	表計算ソフトウェアの主な関数の種類や特徴について理解させるとともに、関数を活用するための技法を習得させる	24
	(4) 表計算ソフトウェアの関数の活用・応用	データベース関数の意義や役割について理解させる。ビジネス諸活動において、情報を加工・活用する必要性について理解させる。 (定期考査)	24 合計 84
3 学期	(5) アルゴリズムとプログラミング ① Micro:bitの活用 ② Pythonによるプログラミング	Micro:bit の操作によりアルゴリズムについて理解させ、更にPython によるプログラミングを習得させる。 (卒業考査)	21 合計 105

評価の観点・方法

関心・意欲・態度	日常の授業への参加態度・取り組み姿勢を総合的に評価する。
技能・表現	課題提出の状況等を総合的に評価する。
思考・判断	学習活動における思考や判断の状況を総合的に評価する。
知識・理解	定期考査・演習の態度や状況等を総合的に評価する。

